

2020年 1月 8日

産業医科大学で、2016年4月から2021年3月まで、医療従事者として放射線業務に従事された（またはされる）方へ

産業医科大学産業保健学部産業・地域看護学講座では、以下の研究を実施しております。この研究は、放射線業務の際に、法令に基づき実施された個人被ばく線量測定の記事を利用して実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年12月22日制定 平成29年2月28日一部改正）」により、対象となる教職員等の方々お一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の被ばく線量の情報が利用されることを了解されない方は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。なお、利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

放射線管理区域内で検査を行う医療従事者の放射線被ばく線量実態調査に関する後ろ向き観察研究

2. 研究期間 2020年1月 ～ 2022年12月

3. 研究機関 産業医科大学

4. 実施責任者

産業医科大学 産業保健学部産業・地域看護学講座 教授 樫田 尚樹

5. 研究の目的と意義

本研究ではまず、放射線管理区域に立ち入る医療従事者を対象に、具体的な放射線診療内容（手技）毎の被ばく線量を調査することで、水晶体等価線量限度の引き下げが及ぼす様々な影響を見積もることを目的とします。

さらに、得られた放射線診療内容（手技）毎の被ばく線量の実態から、水晶体等価線量限度を超過する可能性の高い職種や個人を抽出することで、具体的な被ばく線量低減策を講じることが可能となるため、放射線による有害事象（主に視覚障害性白内障）の発症防止につながります。

6. 研究の方法

本研究は、放射線管理区域に立ち入る医療従事者の被ばく線量を、放射線診療内容（手技）ごとに分析することで、水晶体等価線量限度引き下げに伴う医療施設や個人への影響を見積もることを目的とした、後ろ向き観察研究です。対象期間及び対象者は2016年4月から2021年3月（線量限度算定のためのブロック5年に相

当)までに放射線管理区域に立ち入った医療従事者です。本研究は、各医療従事者に介入(業務改善の指示等)するものではありません。本研究は、被ばく管理が不適切な医療従事者を見つけることが目的ではありません。このため、仮に管理不備が見つかった場合でも、診療科及び個人名を公表することはありません。しかしながら、測定線量を開示希望者には線量を通知いたします。

7. 個人情報の取り扱い

当院及び研究協力施設から提供された対象者を特定できる個人情報は、一切公表しません。被ばく線量データをデータ保存用PCから取り出す際に、対象者が特定できないように氏名、住所などの個人情報を全て匿名化し、研究実施責任者が対象者番号を付して保存します。研究実施責任者は、対象者による開示請求に対応するため対象者番号と実名の対応表を作成し、本学産業生態科学研究所放射線健康医学研究室の鍵のかかる保管庫に保管した上で個人情報を徹底管理し漏洩を防止いたします。

この研究の実施や得られた成果を学会や論文などに発表する場合には、対象者が特定できないように氏名などの個人情報を全て匿名化したデータのみを用い、個人情報は一切使用しません。

研究対象者が、研究対象者が識別される情報の利用の停止を申し出た場合には、その時点までに得られた情報は匿名化を確認した後に直ちに廃棄します。また、研究終了後5年間保存した後、全てのデータは廃棄します。廃棄する際には研究実施責任者の管理の下、完全に匿名化されたことを確認の後行います。さらに、本学に残された個人を識別するための対応表も、同様の措置を行った後廃棄します。なお、廃棄の対象は、データ保存用パソコンから取り出したデータであり、個人の業務上受けた被ばく線量の記録は、法令の規定により廃棄できませんので、ご了承下さい。

8. 問い合わせ先

産業医科大学 産業保健学部産業・地域看護学講座 教授 櫛田 尚樹
住所：〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
電話：093-603-1611、内線 8483
e-mail: kunugita@med.uoeh-u.ac.jp

9. その他

本研究参加による直接的な利益はありません。本研究で利用する個人の被ばく線量の情報は、法令の規定により得られたものであるため、謝礼等はありません。本研究の利益相反については、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており公正性を保ちます。